

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19320040

研究課題名(和文) 日本近世期における中国白話小説受容についての基礎研究

研究課題名(英文) BASIC STUDIES ON THE ACCEPTANCE OF THE CHINESE COLLOQUIAL NOVELS
IN MODERN JAPAN

研究代表者

笹倉 一広 (SASAKURA KAZUHIRO)

一橋大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号：50196185

研究成果の概要(和文)：

- ・各地の図書館などを調査し、関連資料を収集した。そのなかで、岡島冠山『太平記演義』の善本を発見し、影印した。
- ・白話小説と並んで、善書の影響にも着目し、善書を収集・考察し、新発見と覚しき善書を影印した。
- ・「三言二拍」訳注の基礎資料の収集・電子化をし、訳注の基盤を整備し、国文学・中国文学双方の研究に共有されるテキストのプロトタイプを作成した。
- ・シンポジウム「日本近世文藝と中国白話の世界」を開催した。

研究成果の概要(英文)：

- ・ We surveyed many libraries and so on of various places to collect related material for this study. In the process, we found a much better copy of *"Taiheiki-engi"* (Kanzan Okajima tr.) and published it in photogravure.
- ・ Besides Chinese Colloquial Novels, we paid attention to the influence of Moral Stories(善書), collected Moral Stories(善書), investigated them, and published a new found Moral Stories(善書) *"Monjoteikun-inshitsumon"* (文昌帝君陰騭文) in photogravure.
- ・ We searched for the basic material for the translation of *"Sanyanliangpai"* (三言二拍) and digitalized them to prepare for the work of annotated translation of it. And we made a prototype text which is useful to both researchers of Japanese Literature and Chinese Literature.
- ・ We held a symposium on "Japanese Modern Literature and the World of the Chinese Colloquial Novels".

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
総計	7,000,000	2,100,000	9,100,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近世文学、中国白話小説

1. 研究開始当初の背景

日本文化が古来から大陸文化の影響を受けて形成され、近代に至るまで漢詩漢文が第一文芸であり続けたことは論を待たない。それは、本研究が対象とする日本近世文芸においても、またしかりである。しかしながら近世期においては、それまで多く享受されてきた中国のいわゆる漢詩文のみならず、当時の同時代文学であった中国白話小説が日本国内に数多くもたらされることによって、日本の読者たちは、それ以前の日本文学が持ち得なかった作品構想の雄大さやストーリー展開の面白さ、新たなる笑いの要素などに触れ、文学の新しい地平へと導かれることとなった。伝統の中国古典作品とは全く異質の文体、用語で書かれたこれらの白話小説類は、まず僧侶や通事、医学書生といった知識人らによって享受されたが、当初の原文講読から訓読、翻訳、やがて翻案という形で、広く深く日本文学に根を下ろしていき、終には「読本」というジャンルを形成するほどに、日本近世文学に強い影響力を及ぼしていった。

しかし、その受容の基礎的研究、すなわち、中国からの白話小説の舶載情況、日本国内での所蔵・所在情況をはじめとして、日本近代文学での受容情況はまだ十分に研究・調査が進んでいるとはいえなかった。また、国文学研究者がこの研究をする際に頼りとなるような中国の代表的短編白話小説集のまとまった信頼の置ける訳注なども未整備であった。

2. 研究の目的

叙上の如き日本近世文学の重要な文化的基底の一つを明らかにするため、本研究においては「日本近世期における中国白話小説受容についての基礎研究」というテーマを設定し、「三言二拍」・中国善書・笑話を始めとする中国白話小説類と日本近世文学との密接な関わりを明らかにするとともに、基本的な資料整備、日本文学と中国文学の両研究において共有されるテキストの作成を目的とした。

3. 研究の方法

(1) 基本的な資料整備

日本国内の所蔵機関について調査研究をした。また国文学研究資料館の収集したデータをベースとする紙焼きやコピーを作成した。

(2) 日本文学と中国文学の両研究において共有されるテキストの作成

中国明代の短編小説集で日本に多大な影

響を与えた「三言二拍」と総称される小説集の、日本文学・中国文学双方の研究に資する訳注を作成を目指した。研究の少ない『二刻拍案驚奇』から着手した。作業にあたっては、中国の古典小説の研究者の学会である「中国古典小説研究会（当代表：笹倉一広）」の協力を仰いだ。

(3) 日本近世期における中国白話小説受容についての考察

白話小説類（中国善書・笑話を含む）の近世文学への影響についてシンポジウムを開き、研究の成果を公表するとともに、他分野専門家の知見を取り入れ、新たな視点を養った。

4. 研究成果

(1) 基本的な資料整備

国立国会図書館、国立公文書館内閣文庫、国文学研究資料館、京都大学人文学研究所、愛媛大学図書館、愛媛県立図書館、祇園寺（茨城県）、西園寺（山口県）等、各地の図書館等で諸本の調査を行った。

調査の結果、特に岡島冠山の『太平記演義』（中国の演義小説と類似する文学現象である『『太平記』読み』のテキストを冠山が漢訳したもの。二段組みで上に漢訳、下に和文）について、諸本の比較調査を行った結果、愛媛県立図書館蔵本が、比較的良好に知られている内閣文庫本に比べ、最終版である附箋訂正本の附箋を剥落なく持つ善本あることが判明した。今後広く研究に資すると判断し、当該本の影印と解説を平成 19 年度に調査成果としてまとめ印行した。

その後、新たな分野の調査に着手し、善書『太上感應篇』『陰騭録』『和語陰騭録』『訳陰騭録』『文昌帝君陰騭文』『通俗陰騭文』等を収集し、分析・検討を行った。諸書中『文昌帝君陰騭文』は国書総目録に記載がなく、中国白話文学の影響を受けたことで知られる上田秋成の活躍時にはよく読まれた本である可能性が高いと判断し、平成 22 年度のシンポジウム報告書に影印を掲載した。収集した善書を分析・検討の結果、善書と仏教、特に浄土宗・曹洞宗との強い関わりが明らかになった。そこで、水戸藩で徳川光圀に厚遇され水戸・祇園寺に住した明の禅僧、東臯心越に着目し、心越関係の資料の収集・調査を行った。また、後述のシンポジウムでテーマとして取り上げ、仏教学からの知見を仰いだ。

(2) 日本文学と中国文学の両研究において共有されるテキストの作成

江戸文学に大きな影響を与えた中国明代末の短編小説集「三言二拍」の国文学・中国

文学双方の研究者の利用可能な訳注を作成する手始めとして、「三言二拍」の今までの訳注を、今日では入手しづらいものを含め網羅的に収集し、電子化した。「三言二拍」のうち、訳注の少ない『二刻拍案驚奇』から始めることにし、底本を内閣文庫蔵本に決定し、写真撮影し、同じく電子化した。今回の訳注にあたっては、今まで無視されていた挟批（行間に印刷された批評）・眉批（上部欄外に印刷された批評）にいたるまでの訳注・対訳をめざした。電子化されたテキストを子細に検討した結果、今まで内閣文庫本の影印本として刊行されているものには、整版の段階で知識不足からか眉批などを削除してしまった部分などがあることが判明し、影印本であるからといって、必ずしも信頼できないことが明らかになった。

訳注作業については上述のように中国古典小説研究会の協力を仰ぎ、多数の研究者が分担して作業にあっている。webに掲示板を作り、訳文の文体などについて議論が関わされた。その一つの成果、また訳注の雛型・叩き台として『中国古典小説研究』13・15号に『二刻拍案驚奇』巻4の訳注を発表した。この訳注について、国文研究者メンバー側に意見を徴し、双方が利用しやすいテキストに向けて改訂を行っている。

(3) 日本近世期における中国白話小説受容についての考察

本科研費の最終年度の平成22年7月26日に、今までの研究結果を受け、以下のシンポジウムを開催した。知見を広げるべく、国文学・中国文学者以外のゲスト報告者を招聘し報告をしていただいた。

シンポジウム「日本近世文藝と中国白話の世界」

○日時 平成22年7月26日(月)

○会場 京都大学人文学研究所

○プログラム

基調報告

テーマ「心越・忍激と善書の刊行」

永井政之(駒澤大学)

西田耕三(近畿大学)

▽コーディネーター

福田安典(日本女子大学)

研究発表

川島優子(龍谷大学)

江戸時代の『金瓶梅』

中村 綾(日本学術振興会特別研究員)

陶山南濤『忠義水滸伝解』とその後

一近世における金聖歎本受容の一端
をめぐる一

川上陽介(京都大学非常勤講師)

『笑林広記』とその周辺

▽コメンテーター 金 文京(京都大学)

(4) 研究報告書

以下の2冊の本科研費の研究報告書を刊行した。

①平成19年度～平成22年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書(様式C-19とは別の冊子)「日本近世期における中国白話小説受容についての基礎研究」(課題番号19320040)平成20年2月20日発行

※愛媛県立図書館蔵『太平記演義』影印・解題

②平成19年度～平成22年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書(様式C-19とは別の冊子)「日本近世期における中国白話小説受容についての基礎研究」(課題番号19320040)平成23年2月20日発行

※上述シンポジウムの記録、『文昌帝君陰騭文』影印・解題

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

①入口敦志、飾りとしての文学—肖像画における文学の可視化—、文学・語学、査読無、199号、2011、印刷中

②木越治、藤岡作太郎と上田秋成・序説、上智大学国文学論集、査読有、44号、2011、1-25

③大塚秀高、西王母の娘たち—「遇仙」から「陣前比武招親」へ—、埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要・日本アジア研究、査読無、8巻、2011、81-94

④近衛典子、秋成の浮世草子、西鶴と浮世草子研究、査読無、5号、2011、2-6

⑤入口敦志他6名、『葛巻昌興日記』所引能楽関係記事稿(二)、演劇学映像学2010、査読無、第4集、2011、163-179

⑥大塚秀高、両漢開國中興伝誌・全漢志伝版本源流考、埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要・日本アジア研究、査読無、7巻、2010、21-30

⑦岡崎由美監修、『二刻拍案驚奇』巻4(下)、中国古典小説研究、査読有、15号、2010、1-42

⑧近衛典子、秋成抜粹本『天降言』(翻刻と

解題)、駒澤国文、査読有、47号、2010、251-264

⑨木越秀子、樵夫横尾時陰一『英草紙』第三篇再考一、近世文藝、査読有、91号、2010、44-56

⑩田中則雄、水滸伝と白話小説家たち、アジア遊学、査読無、131号、2010、132-141

⑪大塚秀高、神話と創作—逆流と抱擁をめぐって—、埼玉大学紀要教養学部、査読有、45巻1号、2009、25-43

⑫近衛典子、岡島冠山『太平記演義』(愛媛県立図書館本)解題、科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書(様式C-19とは別の冊子)、査読無、2008、1-4

⑬福田安典、岡島冠山『太平記演義』について—愛媛県立図書館本を中心として—、科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書(様式C-19とは別の冊子)、査読無、2008、97-99

⑭福田安典、明清小説と、日本近世小説と—庭鐘・源内の時代—、江戸文学、査読無、38号、2008、90-122

⑮川上陽介、『小説字彙』「援引書目」に見える中国白話文学作品について—『覚世名言』『春燈閣』『燈月縁』ほか、江戸文学、査読無、38号、2008、117-142

⑯大塚秀高、創作系短篇小説考—『醒世恒言』巻二十「張廷秀逃生救父」を中心に—、江戸文学、査読無、38号、2008、47-69

⑰入口敦志、模倣と変容—『帝鑑図説』受容発端—、江戸文学、査読無、38号、2008、22-42

⑱近衛典子、日本近世小説における白話小説研究の今後、江戸文学、査読無、38号、2008、18-21

⑲岡崎由美監修、【訳注】『二刻拍案驚奇』巻4(上)、中国古典小説研究、査読有、13号、2008、1-63

[学会発表](計6件)

①入口敦志、飾りとしての文学—肖像画における文学の可視化—、日本近世文学会平成22年度秋季大会、2010年11月21日、島根

②木越治、金沢大学国文学会平成22年度大会、国文学的日常生活—藤岡作太郎日記を読む、2010年10月2日、金沢

③大塚秀高、慶賀朱一玄先生飛躍年寿誕暨中国古代小説国際学術研究会、《全漢志伝》《両漢開国中興伝誌》研究緒論、2010年9月24日、中国・天津

④川上陽介、『笑林広記』とその周辺、シンポジウム「日本近世期における中国白話小説受容についての基礎研究」、2010年7月26日、京都

⑤木越治、上智大学国文学会平成22年度夏季大会、発見される作家たち—揺籃期の近世文学史を読む—、2010年7月3日、東京

⑥福田安典、天人と天女 Tennen and tennyō、東南アジア・日本の天女伝説についてのシンポジウム、2009年3月14日、フィリピン・マニラ

[図書](計4件)

①入口敦志、他2名、東京堂出版、仮名草子集成第46巻、2010、372(共同編集のため、分担表示不能)

②木越治、他、八木書店、講談と評弾、2010、36-73

③上田望、他、八木書店、講談と評弾、2010、74-97

④福田安典、他、University of the Philippines, Center for International Studies, Celestial Maidens of Southeast Asia and Japan、2009、16-25

6. 研究組織

(1) 研究代表者

笹倉 一広 (SASAKURA KAZUHIRO)
一橋大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：50196185
(H19：研究分担者)

(2) 研究分担者

近衛 典子 (KONOE NORIKO)
駒澤大学・文学部・教授
研究者番号：20178297
(H19：研究代表者 H20→H21：連携研究者)

(3)連携研究者

福田 安典 (FUKUDA YASUNORI)
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号：40243141
(H19→H21：研究分担者)

大塚 秀高 (OTSUKA HIDETAKA)
埼玉大学・教養部・教授
研究者番号：30126007
(H19：研究分担者)

岡崎 由美 (OKAZAKI YUMI)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：50185419
(H19：研究分担者)

金 文京 (KIN BUNKYO)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：60127074
(H19：研究分担者)

鈴木 陽一 (SUZUKI YOUICHI)
神奈川大学・外国語学部・教授
研究者番号：00131722
(H19：研究分担者)

上田 望 (UEDA NOZOMU)
金沢大学・人間社会研究域歴史言語文化
学系・准教授
研究者番号：90293331
(H19：研究分担者)

木越 治 (KIGOSHI OSAMU)
上智大学・文学部・教授
研究者番号：10109093
(H19：研究分担者)

田中 則雄 (TANAKA NORIO)
島根大学・法文学部・教授
研究者番号：00252891
(H19：研究分担者)

入口 敦志 (IRIGUCHI ATSUSI)
国文学研究資料館・大学共同利用機関等
の部局等・助教
研究者番号：80243872
(H19：研究分担者)

(4)研究協力者

川上 陽介 (KAWAKAMI YOUSUKE)
京都大学・国際交流センター・非常勤講師
研究者番号：00574451

木越 秀子 (KIGOSHI HIDEKO)

金沢大学・大学院人間社会環境研究科博
士後期課程在学中
(H21→H22)